

分析と今後の取組

分析

1. 児童生徒は一定レベルの学力を身につけている
 - 小・中学校とも全ての教科・区分で偏差値50を上回った
 - 小・中学校とも全ての教科で、低学力層の児童生徒の割合が減少した
2. 小学校は、これまで積み上げてきた「授業づくりのスキル」の継承を組織的に進めることが必要
中学校は、学力向上の取組を継続・充実させることが重要
3. 家庭学習に自ら計画を立てて取り組ませる指導等、自立した学習者の育成を目指す必要がある
4. 自己肯定感を高め、「夢や目標」を持たせる指導や支援が一層求められる

今後の取組の重点

1. 小学校における若手教員の授業力を高める組織的な取組の推進
 - ①「2020からの授業づくりハンドブック」「ICT活用ハンドブック」を活用した授業実践及び研修の推進
 - ・生徒指導の3機能を意識した授業の実践 ⇒確かな学力の育成・自己肯定感の高揚
 - ②小学校高学年における教科担任制の推進 ⇒「分かる・楽しい」授業
 - ③「授業力向上アドバイザー」による若手教員への指導・支援
2. Withコロナにおける特別活動や体験的な学習の保障
 - ①自己有用感や達成感を味わわせる活動を生み出す工夫
 - ②今年度後半における学校行事等の教育計画の再編成
 - ③「キャリア・ノート」を活用した「目標をもって生きる意欲や態度」の育成

